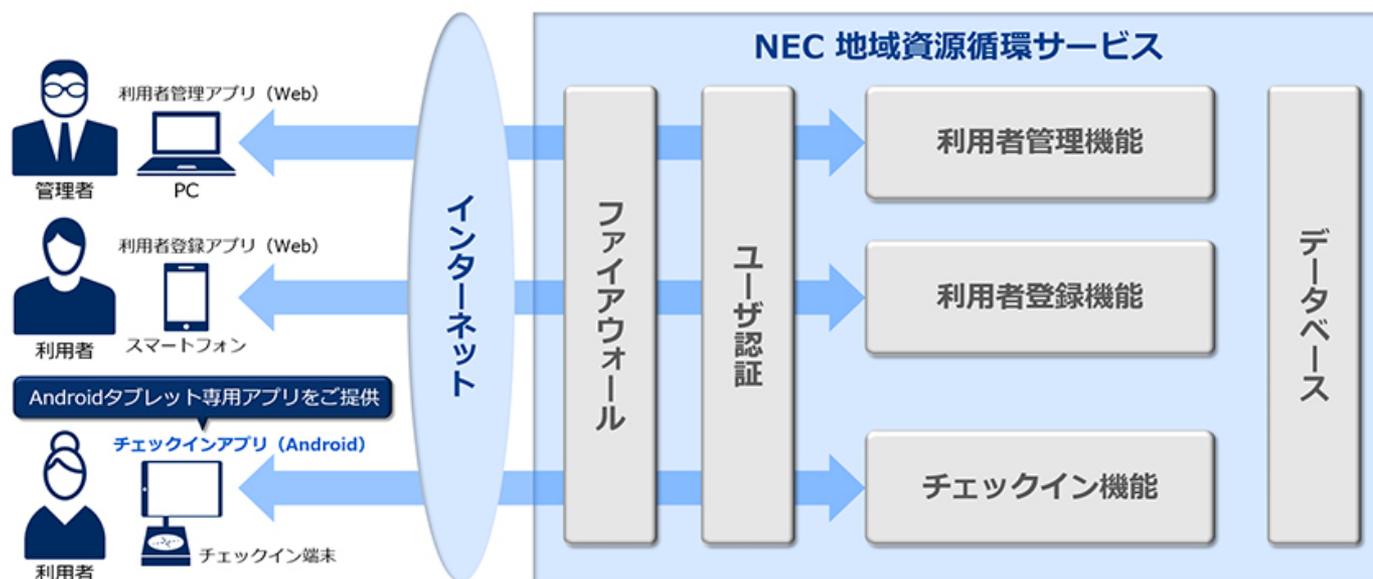


循環資源の回収状況や地域住民の参加状況を可視化し、地域内循環を促すサービス

サーキュラーエコノミーの実現に向けたプラットフォームとしての機能を提供。地域のごみステーションに回収される生ごみ等の循環資源の回収状況や地域住民の参加状況を可視化し、資源エネルギーの地域内循環を促すことを目的としている。



ICカードでアクティビティを記録する仕組みを採用。ICカードをチェックイン端末にかざすだけで資源循環に関するアクティビティを記録可能。また、アクティビティ記録時に行動経済学のナッジ理論に基づいたフィードバックを提供。地域住民の「記録を続けるモチベーション」を高める効果が期待できる。

NEC 地域資源循環サービスの導入で期待できる環境効果

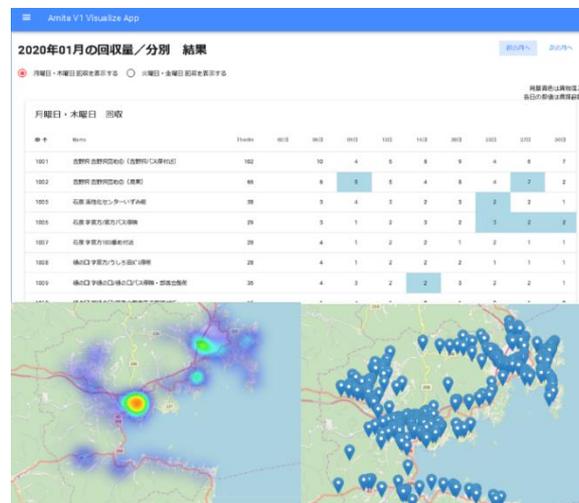
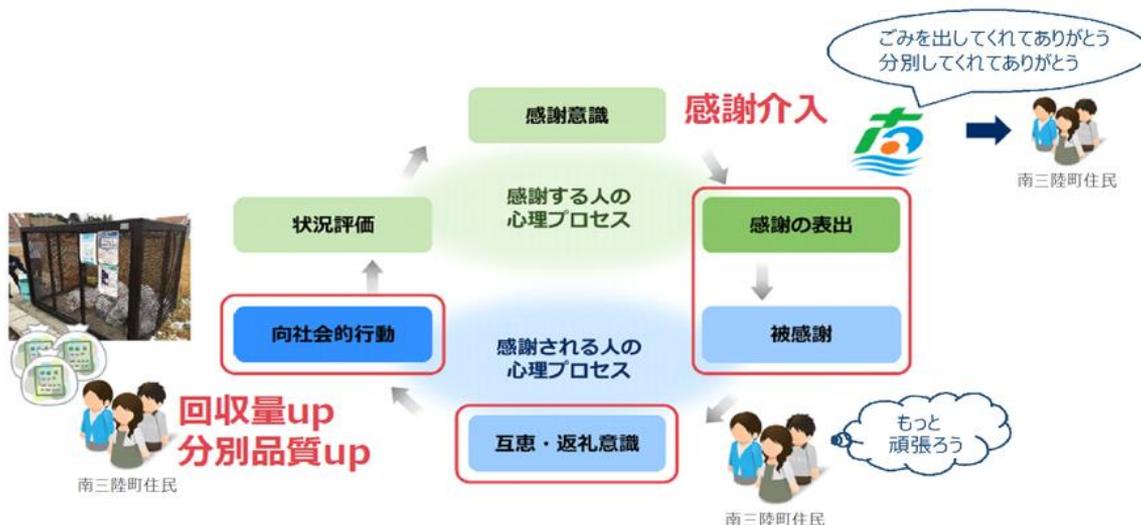
※ベースとなる実証実験で確認できた効果であり、本サービスの導入による直接的な効果ではありません。

解決したい課題

- 町内の家庭・飲食店で排出される生ごみなどを回収して資源化するバイオガス施設を開設したため、有効活用したい。動植物由来の資源を有効活用することで、人と環境にやさしい循環型社会を目指す。
- そのためには、異物混入率を下げていく必要がある。ごみの分別品質を高めつつ、回収量を増やしていきたい。

導入の効果

- 生ごみ分別参加状況の把握の効率化と、「感謝の研究」をベースにしたナッジの手法を用いて、ごみの分別に対する町内の人々の行動変容を促した。
- これにより、導入した地域における分別品質が有意に向上し、回収量の増加傾向がみられた。



本サービスの特徴

ナッジの手法を用いて、ハード面ではなくソフト面で人々の行動変容を促し、資源エネルギーの地域内循環を目指している点において独自性と先進性をもつ。

本サービスのベースとなった実証実験に対する社外評価 環境省主催 令和元年度「ベストナッジ賞」コンテスト 「ベストナッジ賞」受賞（受賞日：2019年12月26日）

- ・2ページ目のアミタ株式会社と当社による共同事例、「ICTを活用した生ごみ分別の参加状況可視化実験」について、取り組みの新規性、社会的意義や行動科学の適切性などが評価された。
- ・本コンテストは、幅広い分野の社会・行政の課題の解決に向けて、ナッジ等の行動科学の理論・知見を活用して行動変容を促進し、効果を測定した実績のある取り組みを表彰するもの。



ナッジ（英語 nudge : ひじで軽く突く）

行動科学の知見に基づく工夫や仕組みによって、人々がより望ましい行動を自発的に選択するよう促す手法